

❖ ネイティブスピーカーが聞き取りやすい発音とは

この章のテーマに思いをめぐらし始めたとき思いついたのが、誰でも、特に日本人が、英語をもっと上手に発音できるようになるには、弱く発音すべき形を、その通り弱く発音するのがもっとも簡単な方法だということです。

学習者のレベルを問わず、文中で **of, to, for, from, the, can, must, have, are** など「弱く発音する形」(弱音形)として用いることができれば、ネイティブスピーカーの耳に、より自然に響き、心地よく聞き取れるような英語を話すことができるようになるでしょう。

弱く発音する形と強く発音する形のコントラストは、英語でコミュニケーションをとるうえで、きわめて重要です。 次の各ペアの太字部をどう発音するか比べてみてください。最初が強音形、二番目が弱音形で読まれ、ネイティブスピーカーはこれをちゃんと区別しています。

- { **C**an you do it? [kæn]
- { I **c**an do it. [k(ə)n]
- { I didn't know **th**at. [ðæt] (指示代名詞)
- { I didn't know **th**at he was Japanese. [ðət] (接続詞)
- { Who are you waiting **f**or? [fɔ:r]
- { I am waiting **f**or John. [fər]

しかしながら、「きわめて重要」だからといっても、これは一朝一夕に身につく技術でないこともまた事実です。

弱く発音する形を使うことは、何年にもわたってごくふつう

に英語を学ぶ中で身につけていく技術の一部でしかありません。言い換えれば、自然と英語学習に「ついてくる」ものです。何年もかけて、「**can** + 原形」、「**know** + **that** 節」、「**wait** + **for** + 人」のようなパターンをたくさん覚えたり、並べ換えや穴埋めの練習にほとんどの時間を費やしても、決して弱い発音の形を使いこなせるようにはならないでしょう。

これまでもふれましたが、このようなやり方では、英語で何を言うときでも、まず日本語で考えて、それを英語の単語に置きかえ、英語らしくなるように単語の順番を入れかえてから発音しなければいけません。これでは、その発音が英語らしく聞こえないばかりか、弱く発音すべき単語をちゃんと弱く発音できるようにはなりません。

英語を頭の中から単語ごとの一つずつ抜き出して、さらに一つ一つ発音するクセが身につけているとしたら、次のような文の区別がつかないのは言うまでもありません。今度は、それぞれ太字部の単語が文中で一番強く読まれることにより、字面ではまったく同じ文に意味の違いが生じています。

John was there.

ジョンがそこにいた。

John **was** there.

ジョンはそこにいた(が、今はいない)。

John was **there**.

ジョンは(他の場所ではなく)そこにいた。

次のようにすれば、英語の弱く読む形(そして英語の発音全般)が身につくはずですよ。